



上田市立第六中学校 学校概要

本校の概要(令和5年度)

* 学級数	1 2 (特支 3)
* 生徒数	4 1 2 名
* 職員数	4 3 名
* 部活動数	1 3 (運動部 1 0 文化部 3)





第六中学校の歴史

- ・昭和53年 四中の過密化, 川西中の適正規模化が検討される
- ・昭和61年 六中開校準備委員会開設。四中、川西中職員が総動員で準備作業
- ・昭和63年 旧小泉小跡地に六中開校
4月5日 第一回入学式が行われる

開校当時・・・

☆建学の精神 ☆教育計画 ☆校則
☆生徒会会則 ☆PTA会則 ☆校歌
→いずれも何ひとつできていなかった。

→と言うより、**作っておかなかった。**

六中の理念

六中を愛し、育てようと集まった生徒・先生・保護者・地域の英知を総集し、**自らの手で**建学しようとした。



昭和63年 「六中教育に何を望むか」の声を募り、**3つのことば**を集約。

昭和63年 6月 学校教育目標完成

創 和 敬

人を敬い、
人から

信頼される生徒

人を認め

思いやり、

人と協力して

活動する生徒

自ら工夫し、

納得するまで

追究し

課題を解決

していく生徒



第六中学校 校歌

山本太郎 作詞

1 千曲の西に

新しい明日を**創**る

※六中 六中

ぼくらの青春の

はじまる**と**ころ

いま学園は 輝く瞳

2 憩いの園に **和**を結び

絆を誓う

※

いま学園は 力のほのほ

3 銀杏のもとに

智恵の実をはぐくみ育て

※

いま学園は 緑の樹林

8月 校歌完成 山本 太郎先生
「青春とは、仲良く似ることではない、飢えることだ。」

昭和63年 2学期 学校のきまり完成

私たちの生活努力目標「生徒手帳」より抜粋



1 主旨とねらい

- (1) 学校が定めた「校内生活のきまり」に基づく。
- (2) 学習態度や安全等に関係する必要最低限のことだけとする。
- (3) 強制ではなくみんなの努力と協力で、生徒全員が守れるようにつとめる。

2 目 標

- (1) 学校生活全般
 - ① チャイム前着席を行う。
 - ② 授業態度を良くするよう、クラスの実情を改善する。
 - ③ 集会時は、校服・名札を着用する。
 - ④ 昇降口は、上下の区別をはっきりつけ、いつもきれいにしておく。

生活努力目標

最後に皆が守れる
ようになればいい。
そのために全校で
努力する。
(初代生活委員長)

人を敬い

さわやかな挨拶
心をこめた清掃
時を守る行動



1年生

3年生

職員

1年生

1年生

縦割り清掃(年2回)

人と和し

合唱を通じた集団づくり
仲間を思いやる行動
～全校のみんなが星のように輝け～
伝統の黄色いリボン運動



中庭合唱 R5春 復活



一冊の本が一人を動かした



「こころのチキンスープ」
～第4章 死を見つめる～
『黄色いリボン』
ダイヤモンド社/1996
国内改訂版

第20期生徒会長から発信された 伝統の黄色いリボン運動



黄色いリボン着用 = いじめをしない、させない

黄色いリボン宣言

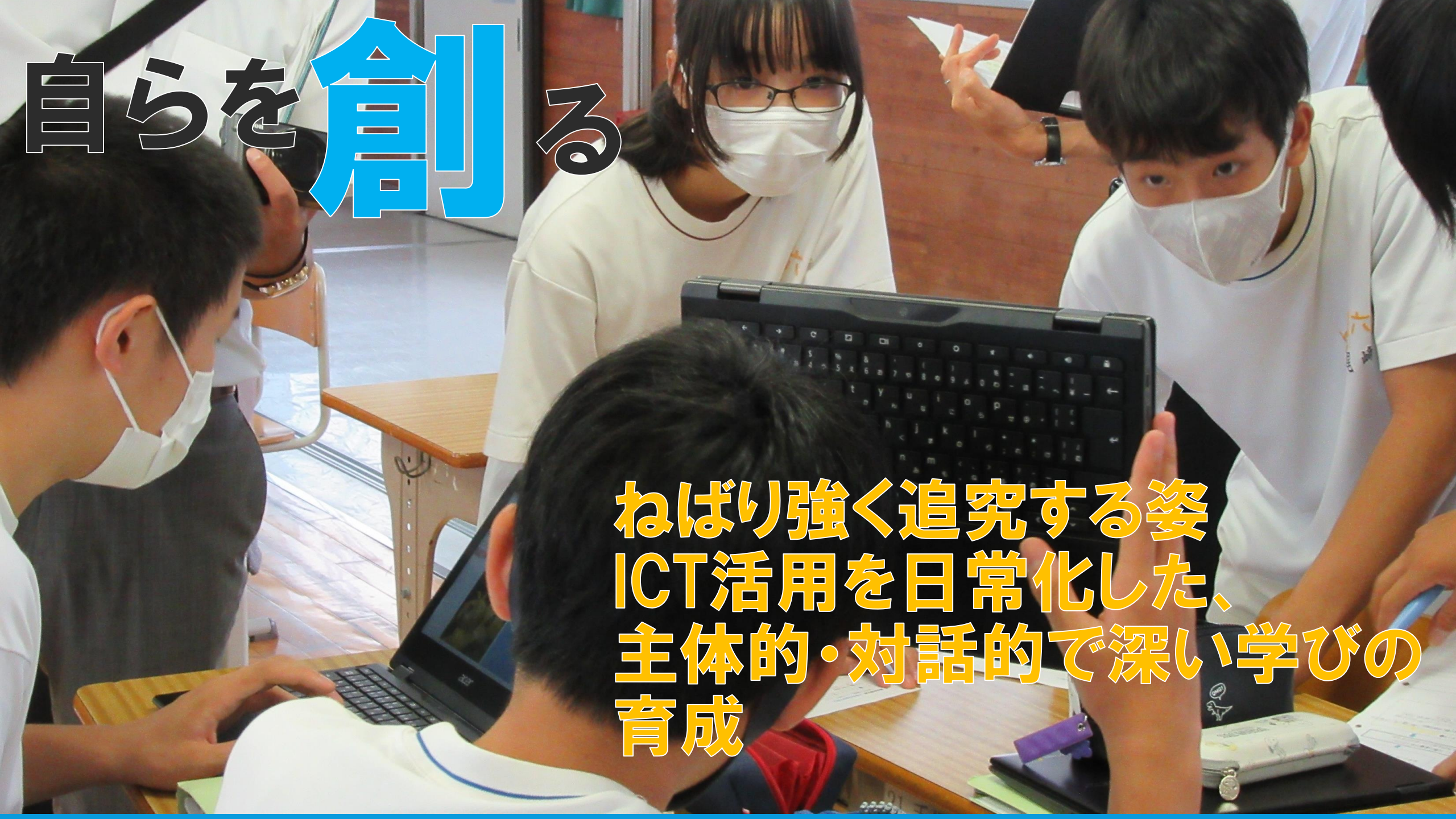
第一条 わたしたちは、いじめや差別、偏見を絶対に許しません

第二条 わたしたちは、共に助け合い、仲間を大切にします

第三条 わたしたちは、相手を思いやり、自分を大切にしながら個性を尊重しあいます

第四条 わたしたちは、周りの方々への感謝の気持ちを忘れずに、素直な気持ちを持ちます

第五条 わたしたちは、お互いの喜びを2倍にし、悲しみを半分にすることで、全校が過ごしやすい笑顔あふれる活発な六中にしていきます



自らを**創**る

ねばり強く追究する姿
ICT活用を日常化した、
主体的・対話的で深い学びの
育成

教育課程研究協議会(国語)



上小社研研究授業(社会)



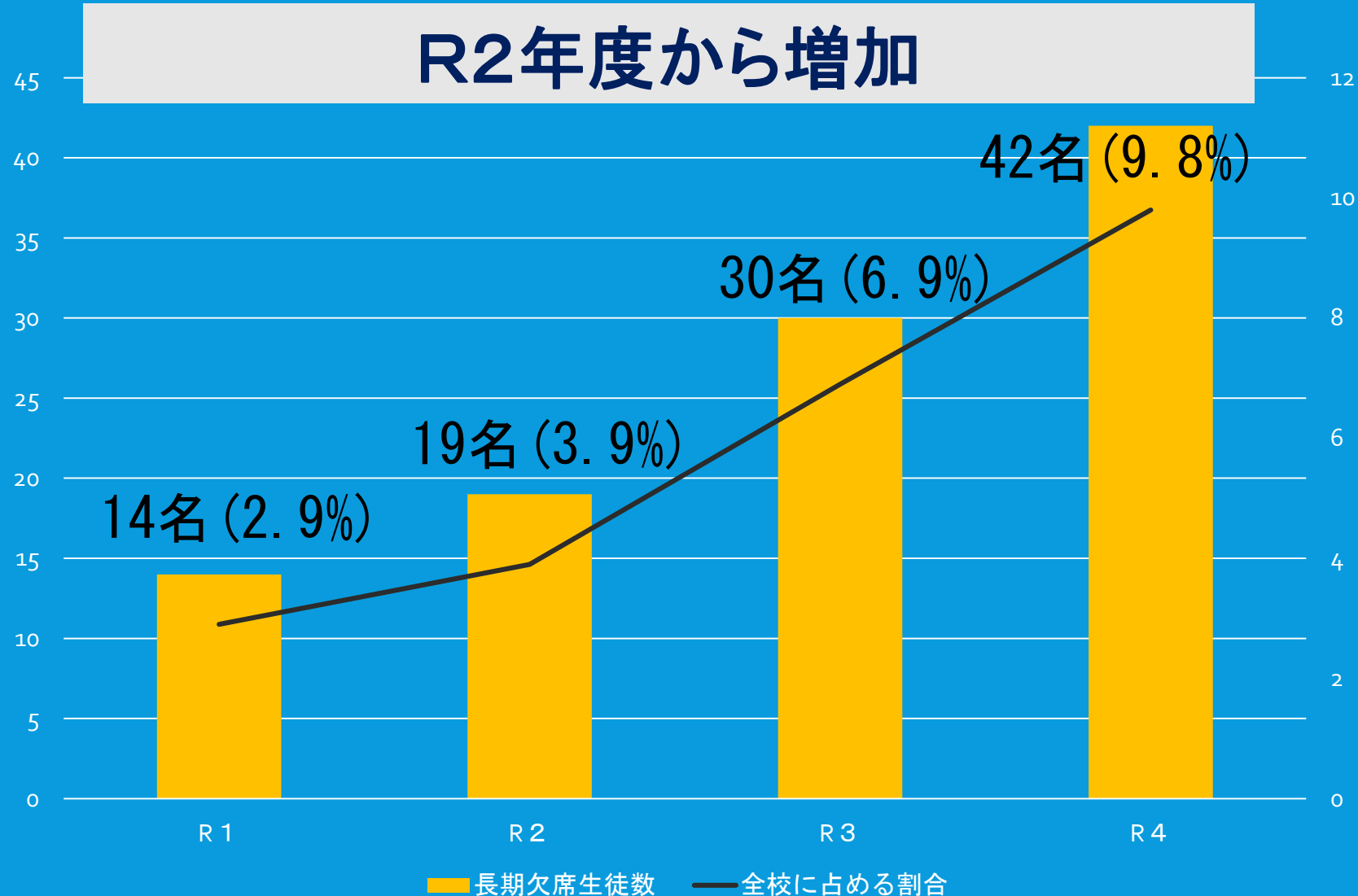
ICTを活用し、教える授業から**生徒が自ら学ぶ授業**へ
教職員の意識が**柔軟に変化**

R4 3年ぶりに開催 四者会議

R5 持続可能な「ふるさとタイム」へ

本校の不登校生の状況（直近4年間）

* 年間30日以上欠席した生徒の人数と割合



サポートルームでの 不登校支援の多様化



代々受け継がれている 六中のマインドとマツチ

- ・ 生徒の実態に合わせて柔軟に対応
- ・ 生徒自身の自己決定を尊重していく

- ・ 生徒の自らの創意を重んじ、努力を育てる

持続可能な支援環境づくりを目指して



R4年度 校内フリースクール(サポートルーム)を新設



学校はどのくらい
そしてどこまで
生徒一人一人の生徒を
理解し、寄り添うこと
ができるのか？

上田市立第六中学校 校舎

サポートルーム

教室棟



職員玄関

生徒昇降口

- 本人のエネルギーが貯まるまで
- 自分から動き出そうとするまで
- 信頼関係を築くことができるまで

待つ



不登校だった状態からサポートルームへ登校することを始め、3年生になったらクラスへ戻れるように目標を決め、自分のペースで学習を進める2年生のAさん。



教室へ入るのが困難だった状態から、1日の半分くらいの授業をクラスで参加できるようになってきた1年生のBさん。

支援の基本線は、多様性を受け入れ、待つこと

4校時の途中から
登校する予定

2-2女子



2-4女子

音楽を聞きながら
自習中

テスト勉強中

1-1女子

休憩中

2-1女子

1-3女子

クラスの体育の
授業に参加中

1-4男子



「校風」とは（初代校長 中澤 仁一郎先生）

「過去の事実を後生に伝えたり、
事実を再現したりすることではなく、
その事実を生んだ『心』を大切にしてい
くことである。」

「『校風』とは、過去の形骸を越えようとする
精神的な活動であろう。」



R 5 の課題：原点回帰 新しい風土・文化を創る学校に

- ・ I C T 利用？ I C T 活用？
→生徒が問いをもち、考えさせる場が授業に設定されているか
- ・サポートルームを頓挫させない！
- ・各生徒会活動の本来の目的＝先輩生徒や教師の「心」が理解されているか？
- ・「ふるさとタイム」をはじめとした地域とのつながりがたった一度の発表会に留まっていないか？